静岡文化芸術大学　国際文化学科　ディプロマ・ポリシー

学習・教育目標	対応するディプロマ・ポリシー（国際文化学科）	
知識・理解	世界の多様な文化とその背景に関する専門的な知識を体系的に修得し、時代・地域・社会・集団などにより文化がいかに形成され、共生・共存しているかを多角的に捉えることができる。	DP1
汎用的技能	世界の言語を専門的に習得するとともに、文化の多様性と価値を学び、多文化共生社会を実現していくために必要なコミュニケーション能力と企画力を身につけ、行動することができる。	DP2
態度・志向性	グローバル社会を客観的に分析し、相互の文化を尊重しながら、人々が共存するための方向性を主体的に考え、他者との対話を通じて新たな可能性を見出すことができる。	DP3
総合的な学習経験と創造的思考力	国際社会・地域社会が抱えている課題の本質や文化のあり方を批判的かつ建設的に捉え、その解決方法を提案し、グローカルな社会と文化の発展に貢献する構想力と実行力を身につけている。	DP4

カリキュラムマップ　（国際文化学科科目）

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
国際文化学科	学科基礎	―	国際文化概論	1前	2		国際文化を広く学ぶために、国際文化が一定の安定性を有しながらも、変わりつつある構造物であることを知り、それを関係的、構造的、過程的に捉える視点を育むことを科目の主要な目的とする。また、この科目の学びを通して、その後の学科での学習への関心と意欲を高めていく。そのために、国際文化学科の教員の研究成果や多様な事例を用い、具体的な事象から国際文化の全体像を考察して、国際文化を理解する上で必要になる多様な視点を学ぶ。	○	–	○	–
国際文化学科	学科基礎	―	文章表現技法	1前		2	人文・社会科学分野における文章作法の知識を身につけ、それを応用する力の獲得を目指す。文章構成の重要性、および日常語とは異なる学術的文章作法について理解を深め、実際の文章作成によって各人の表現能力を高めることをねらう。また、文章表現の前提となる情報収集のための読解力の向上、語彙力の強化、実用的文章の表現技法の習得に総合的に取り組むことにより、目的に応じた文章表現能力を高めることも目標とする。	–	◎	–	–
国際文化学科	学科基礎	―	比較文化論	1前		2	文化とは何か、文化の違いをどのように捉え、どのように比較するのか、といった文化の見方について検討する。まず文化に優劣はないという文化相対主義的な基本認識に立ち、時代・地域・集団ごとに異なるものとして文化を捉え、各々の文化の独自性と固有の価値観を考察する。その上で、複数の文化が接触し合い相互に影響する、または異文化を鏡として自らの文化を形成する過程に注目し、文化が相互に変容する可能性をも考察する。	○	–	○	–
国際文化学科	学科基礎	―	国際文化基礎論	1後	2		全学科目「学芸の基礎」の後を受け、国際文化理解に必要なリテラシー能力の一層の充実を図る。学術的関心に基づく研究テーマの設定、そのテーマに関する情報の収集・分析、テーマに対する多様な視点からの論理的な考察、および考察内容に関するレポート・論文の作成・発表という一連の過程のために必要な知識・技法を学び、それらを応用して履修者各自がレポートを作成する。こうした過程を通じて、国際文化学科で学ぶための基礎力となるリテラシー能力を高める。	–	○	○	–
国際文化学科	学科基礎	―	ﾅｼｮﾅﾘｽﾞﾑ論	1後		2	近代以降の世界の姿を知る上で、nation（民族/国民）への理解は欠かせない。本科目では手始めに簡単な理論的導入を施した上で、多民族状況と格闘するべく多文化共生的な政策を推し進めながらも結局はいくつもの国民国家に分裂する形で崩壊するに至った複数の多民族国家を事例として取り上げ、行政上の枠組の変遷や言語空間の変容が民族および民族問題の形成に及ぼした影響を論じることを通じて、nationを固定的な所与のものとする見方を再考する。	–	–	○	○
国際文化学科	学科基礎	―	国際関係論	1後		2	「国際関係論」とは、国際社会やそこで生起する様々な現象を対象とする学問である。この授業では、学問の成り立ちや性格を紹介した上で、今日まで積み重ねられてきた理論と学説の系譜を概観し、主要な視座と基礎的な概念を習得する。さらに、以上の学問的なツールが国際問題の分析や歴史の理解にどのように適用されるかについて、いくつかの事例を通じて検証し、国際関係への学問的な理解と考察を深めることを授業の目標とする。	–	–	○	○
国際文化学科	学科基礎	―	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｷｬﾘｱ･ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	2後		2	国際的な舞台で展開されるさまざまな仕事や求められる人材について学び、学生が自分の可能性とキャリア形成に向けて必要な準備を進めるための学びの場とする。特に機械工業、サービス業、非営利団体、流通業などの国際的な業務を展開している業界に関する知識を修得し、求められる人材の具体的なケースを研究するとともに、必要に応じて現場で活躍する専門家を講師として招き、具体的な学びを行う。これらを包括的に学ぶことによって、グローバル人材としてのキャリア・デザインを作成するための学びの場とする。	–	–	○	○
国際文化学科	専門外国語	―	英語表現法	1後		2	英語による効果的な文章作成、論文作成、口頭発表ができるような英語表現技法の基礎力を養うことを目的とする。英語でわかりやすく表現するにはどうすればよいのか、英語らしい表現、論理的な文章構成、パラグラフの効果的な使い方など、英文を書く上での基礎を身につける。また、多くの英文を書く課題を通じて、自分の言いたいことを自然な英語で表現できるよう訓練し、話す・書くといった産出面での正確さと流暢さの両方の能力を伸ばす。	–	◎	–	–
国際文化学科	専門外国語	―	応用英語　観光英語	3前		2	国内や海外で活躍できる、旅行者を案内するツアーコンダクターやツアーガイド、その他観光業に必要な英語の基礎から実践的な力までを習得する。旅行中や、観光業において遭遇するであろう様々な場面における対処法や、観光必須用語、および必要な表現を効果的に習得していく。卒業後の進路を見据えた、英語を使う仕事につながるキャリア・パス（career path）科目である。	–	◎	–	–
国際文化学科	専門外国語	―	応用英語　プレゼンテーション英語	3前		2	ビジネス関連のトピックについて、個人またはチームで行う英語プレゼンテーション技能を養う。その技能は国際企業で働く際に必要な共同プロジェクト作業に対応したものである。具体的には、英語を使ってビジネスデータを一貫したストーリーにまとめる方法や、プレゼンテーションフォーマットに沿ってアイデアを論理的に提示する方法などを学ぶことで、分析力、コミュニケーションスキルを養う。	–	◎	–	–

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
国際文化学科	専門外国語	―	応用英語　通訳	3後		2	将来通訳のプロとして、あるいはコミュニティのボランティア通訳として、または国際化社会における多言語企業で働く者として、必要な技能を養成するキャリア・パス（career path）科目である。通訳養成に使われる訓練法、つまり耳から入ってくるセンテンスのリピートと訳、シャドーイング、サイト・トランスレーション、パラグラフごとの要約と訳など、英語から日本語、日本語から英語へとすばやく転換する力を養う。また、日本に暮らす外国人の数が増加していることから、言葉の橋渡しをするコミュニティ通訳者として、司法、医療、学校、行政の通訳業務についても学ぶ。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	応用英語　翻訳	3後		2	将来の翻訳者を育成するための入門的キャリア・パス（career path）科目である。翻訳は現場での経験がものをいう仕事であるが、大学の授業で翻訳の理論と方法を学び、実務翻訳をすることで、翻訳の難しさと重要性を学ぶ。翻訳とは辞書と英文法の知識さえあれば誰にもできるという単純な作業ではない。内容としては、翻訳の理論を最初に学び、次に実際に解説文、評論文、論文、小説、絵本、マンガ、字幕、歌詞、マニュアル、カタログ、ビジネスレター、契約書、広告文などの翻訳を行う。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	中国語上級Ⅰ	3前		1	総合的な中国語力の強化を目的とし、これまで学んだ中国語の完成を目指す。3年次生を対象に、書く、話す能力を中心に、上級レベルの言語表現法を学ぶ。実践的な手紙文、挨拶文、通信文、報告書などの形式と、それに合った表現・語彙を身につけるとともに作文能力も養っていく。また、翻訳練習を通して、日本語と中国語の表現方法の違いをより深く理解する。さらに、中国語使用の実際に即した専門書・参考書の使い方を身につけ、中国語の応用能力を高める。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	中国語上級Ⅱ	3後		1	総合的な中国語力の強化を目的とし、これまで学んだ中国語の完成を目指す。3年次生を対象に、話す、聞く能力を中心に、上級レベルのコミュニケーション能力を養う。日常的な会話、討論、スピーチなどの場面に応じて、それに合った表現・語彙を身につけ、実践的な語学力の育成を目的とする。また、通訳練習を通して、口語表現を含めた日本語と中国語の表現方法の違いをより深く理解し、異文化間コミュニケーションの実践的知識、さらに語用論的知識を身につける。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	イタリア語上級	3前		1	イタリア語初級、中級で学んだ文法知識の定着と会話力の強化を図る。イタリアの大学の学部レベルの講義に対応できるよう語彙を増やし、実践的なプレゼンの練習を繰り返し行う。音声・映像教材やTVニュースを活用し、さらに、歴史や芸術、生活文化に関する記事、様々な文書の読解に取り組み、文化への理解を深める。「話す」「聞く」「読む」「書く」力を総合的に向上させ、実用イタリア語検定3級程度の力を身につけることを目標とする。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	ﾌﾗﾝｽ語中級ⅠA	2前		1	フランス語の基本を習得した者を対象に、フランス語での口語コミュニケーションに慣れ、その運用能力を向上させることを目標とする。授業では音声・映像教材を使って、正確に聞き取る、正確に発音する、新たなシチュエーションに対処するといった練習を行い、「聞く・話す」に力点を置いたコミュニケーション能力を高める。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化にたいする理解も深めて、フランス語学習から現代世界を見ていく力を養う。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	ﾌﾗﾝｽ語中級ⅠB	2前		1	フランス語の基本を習得した者を対象に、文法知識を深め、高度な語彙や表現を学びながら、フランス語の「読む・書く」能力を高める。授業では具体的なテキスト読解を中心としつつ、文法問題などを解く練習を行い、フランス語を自ら発信するための力を養う。新聞やインターネットの記事などで、日常的に使われるレベルのフランス語が理解できることを目標とする。また、今日のフランスとフランス語圏の社会や文化事情についての理解にも努める。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	ﾌﾗﾝｽ語中級ⅡA	2後		1	フランス語中級ⅠAに引き続いて、口語コミュニケーションとしてのフランス語に慣れ、その運用能力のさらなる向上を目標とする。授業では音声・映像教材を使って、正確に聞き取る、正確に発音する、新たなシチュエーションに対処するといった練習を行い、「聞く・話す」に力点を置いたコミュニケーション能力をさらに高める。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化にたいする理解も深めて、フランス語学習から現代世界を見ていく力をさらに養う。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	ﾌﾗﾝｽ語中級ⅡB	2後		1	フランス語中級ⅠBに引き続いて、文法知識をさらに深め、より高度な語彙や表現を学びながら、フランス語の「読む・書く」能力を向上させていく。授業では具体的なテキスト読解を中心としつつ、文法問題などを解く練習を行い、フランス語を自ら発信するための力を養う。新聞やインターネットの記事などで、日常的に使われるレベルのフランス語に習熟することを目標とする。また、今日のフランスとフランス語圏の社会や文化事情についてのさらなる理解に努める。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	ﾌﾗﾝｽ語上級	3前		1	これまでに学んできたフランス語の知識にもとづき、「読む・書く・話す・聞く」能力を総合的に養う。授業は演習形式で行い、テキスト講読や会話練習を中心として、実践的なフランス語運用能力を身につけることを目標とする。フランス語検定等の資格試験の問題演習や、フランス語でのスピーチ練習なども、参加者の興味を勘案しつつ適宜行う。フランスおよびフランス語圏の文化と社会にたいする理解も深め、複数言語を学習することの意義と世界の多様性を認識していく。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語中級ⅠA	2前		1	ポルトガル語初級IA・IB・IIA・IIBで学んだポルトガル語の基礎をもとに、日常会話の練習を中心に、聞き取りの練習も積み重ねる。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるよう指導する。同時に視聴覚資料などを使ってブラジルの歴史･社会･文化･習慣について紹介する。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語中級ⅠB	2前		1	ポルトガル語初級IA・IB・IIA・IIBで学んだポルトガル語の基礎をもとに、日常会話の練習を中心に、聞き取りの練習も積み重ねる。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるよう指導する。同時に視聴覚資料などを使ってブラジルの歴史･社会･文化･習慣について紹介する。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語中級ⅡA	2後		1	ポルトガル語中級ⅠA、ⅠBで学んだポルトガル語の基礎をもとに、引き続き日常会話の練習を中心に授業を進める。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるよう指導する。また、ポルトガル語の文法・語彙をレベルアップさせ、さらに会話能力育成を中心に授業を進める。同時に視聴覚資料などを使ってブラジルの文化や社会について理解を深める。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	―	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語中級ⅡB	2後		1	ポルトガル語中級ⅠA、ⅠBで学んだ文法・語彙をレベルアップさせ、さらに読解力と実用的な文章の作成を中心に授業を進める。ブラジル人コミュニティ内では、ポルトガル語による新聞やテレビチャンネルも普及していることから、学生がそれらのメディアに触れられるように指導し続ける。同時に視聴覚資料などを使ってブラジルの文化や社会について理解を深め、在浜松市のブラジル人学校やブラジル人コミュニティとの交流を図る。	－	◎	－	－

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
国際文化学科	専門外国語	－	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語上級	3前		1	ブラジル･ポルトガル語の基本的知識を活かしながら、新聞や雑誌の記事を読む。また、ポルトガル語でTVニュース番組を見て、それぞれの内容についてポルトガル語で討論をする。なお、浜松市にブラジル人コミュニティがある背景には、ブラジルにある日本国外の最大の日系コミュニティの存在がある。これらの歴史的背景を学生に紹介しながら、ポルトガル語の資料を読んで歴史を学ぶよう指導する。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	－	韓国語中級ＩＡ	2前		1	韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「聞く･話す」能力のさらなる向上を目指す。慣用的挨拶や基本的な会話表現の練習を通じて、基本的な単語や語彙と文法を学習しながら、また視聴覚教材を援用して聞く訓練を重ねる。日常会話を題材にして学生同士の対話訓練も実施して、繰り返しのトレーニングを行い、正確な発音を身につけ、韓国語の聞く･話す力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国の社会と文化についても理解を深める。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	－	韓国語中級ＩＢ	2前		1	韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「読む･書く」能力のさらなる向上を目指す。慣用的表現や対義語･類義語の微妙な使い分け、韓国語と日本語の表現の違いなどに留意しながら、より高度な文法や構文･作文の学習を通して、韓国語の体系的な理解を図る。また辞書を引きながら、新聞や雑誌の記事などを読む訓練を重ね、韓国語の読む･書く力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国の社会と文化についても理解を深める。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	－	韓国語中級ⅡA	2後		1	韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「聞く･話す」能力のさらなる向上を目指す。韓国語中級ＩAに引き続き、慣用的挨拶や基本的な会話表現を通して、単語や語彙と文法を学習しながら、また視聴覚教材を援用して聞く訓練を重ねる。日常会話を題材にして学生同士の対話訓練も実施して、繰り返しのトレーニングを行い、正確な発音を身につけ、韓国語の聞く･話す力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国の社会と文化についても理解を深める。	－	◎	－	－
国際文化学科	専門外国語	－	韓国語中級ⅡB	2後		1	韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「読む･書く」能力のさらなる向上を目指す。韓国語中級ＩBに引き続き、慣用的表現や対義語･類義語の微妙な使い分け、韓国語と日本語の表現の違いなどに留意しながら、より高度な文法や構文･作文の学習を通して、韓国語の体系的な理解を図る。また辞書を引きながら、新聞や雑誌の記事などを読む訓練を重ね、韓国語の読む･書く力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国の社会と文化についても理解を深める。	－	◎	－	－
国際文化学科	日本･東ｱｼﾞｱ	－	日本文化史	1後		2	日本列島上の島々の社会や文化の特徴について、東アジアをはじめとする諸国家･諸民族との交流の歴史を軸にしつつ考察する。例えば、北海道、沖縄諸島、対馬、小笠原諸島などを取り上げ、それぞれに固有な歴史･文化が、いかなる地理的･社会的背景によって生まれたのかを明らかにする。そのことにより、日本が決して単一の社会ではないことを深く理解するとともに、日本文化の多様性を考える。対象とする時期は、古代から現代まで幅広く設定する。	◎	－	－	－
国際文化学科	日本･東ｱｼﾞｱ	－	日本文学史	1後		2	日本の神話･伝説･昔話といった口承文芸（伝承文学）を主軸のテーマとして、そこから展開･派生するかたちで上代から近現代までの日本文学の体系的な歴史を学ぶ。通史的･編年的な文学史ではない。日本文学というジャンルと作品に深く関わって、文学作品とその成立と展開を支えてきた社会、歴史、民俗、風土、信仰、国際性などについての理解を目指す。受講生には、この講義を通して日本文学の「広がり」について考える機会としてほしい。	◎	－	－	－
国際文化学科	日本･東ｱｼﾞｱ	－	現代日本語表現	1後		2	現代日本語表現を、意識的かつ分析的に観察する視点を涵養する。実際のコミュニケーション、フィクション、住生活や食生活といった生活場面、時には、社会変化などから、それらの中で見られる日本語表現を取り上げていく。日本語表現の特質とはどのようなものか、その特質がある場面でどのような効果を持ち得るのか等に注目し講義をする。また、取り上げた現代日本語表現が、どのような変化を経て、あるいは、どのような歴史的背景を持ち存在しているのか等の通時的な視点も取り入れていく。	○	－	－	○
国際文化学科	日本･東ｱｼﾞｱ	－	日本文学A	2前		2	日本の古典文学作品を対象として、古典文学を理解するために必要な基礎知識を習得する。古典文学は、それが成立した社会、歴史、民俗、風土、信仰、思想などさまざまな視点を踏まえて読み解かれるべきである。作品に込められた作者の、あるいは伝承者たちのメッセージを正確に読み解くことで、古典文学の中に受け継がれた日本文化の深層への理解を目指す。受講生には、この講義を通して日本文学の「深み」について考える機会としてほしい。	◎	－	－	－
国際文化学科	日本･東ｱｼﾞｱ	－	日本文学B	2後		2	日本の近代文学および現代文学を対象として、それらを理解するために必要な知識の習得を目指す。明治以降の文芸は西洋の思想的影響に晒されて浪漫主義や自然主義といった思潮を展開させた。この講義では、特に自然主義の思潮を近代文芸における基軸の一つとして捉え、その展開と葛藤、相克といった視点から個々の作家、作品を検証してゆく。近代日本における文芸の流行とその社会的な背景を学ぶことで、一つには高い教養を身につけ、あるいは「近代」とは何だったのかまでを思考する機会としてほしい。	◎	－	－	－
国際文化学科	日本･東ｱｼﾞｱ	－	日本史学A	2前		2	日本の中世から近世を対象として、その社会のあり様と人々の存在形態について考察する。特に身分制社会の成立過程と、その中での人々の社会的役割や生活･思想についてみていく。武士･公家･百姓･町人･被差別民というような社会集団からだけではなく、女性や子ども･老人といった年齢や性別、あるいは身分を超えたネットワークのあり様など、多様な視点から分析を試みる。そのことにより、今日の日本社会のあり様についても考える力を養う。	◎	－	－	－
国際文化学科	日本･東ｱｼﾞｱ	－	日本史学B	2後		2	前近代から近現代に至る日本の歴史について具体的史料に基づいて講義する。この授業では、日本列島を超えた国際的な視野で世界史の中の日本史を捉える。また、こうした世界史の中で、静岡県域あるいは三遠南信（三河、遠江、南信濃）、東海地域というこの地に、どのような影響がみられたのかを、地域に根ざした歴史から理解させていくものである。世界と地域という二つの視点を重視しながら、人物史、政治史のみならず、社会経済や文化の推移についても、論じていく。	◎	－	－	－
国際文化学科	日本･東ｱｼﾞｱ	－	日本語語彙研究	2後		2	日本語の語彙の性質について、日本語学的な観点から体系的な語彙論のもとに学んでいく。語彙というのは語の集まりである。本講義で学んでいくのは語（個別的な語）ではなく、語の集合である語彙である。具体的には、語彙には、どのような特徴があり、どのような構成をしているのだろうか、また、日本語を学ぼうとする外国人に、日本語を教えるためには、どのくらいの語彙の知識が必要であろうか、などである。これらを学ぶことで、日本語の語彙に対する客観的･分析的な視点を養ってほしい。	－	◎	－	－
国際文化学科	日本･東ｱｼﾞｱ	－	日本文学作品研究	2後		2	特定の文学作品の原典を精読する。作品の本文だけでなく、その成立をめぐる歴史的･社会的背景、文化的･思想的環境、諸本（テキスト）の異同･分類、研究史、最新の研究課題、研究手法などを学ぶ。日本文学の本格的な研究成果に触れることにより、課題･論点の見出し方とそれを解決する方法（資料の読み方、調査の手法など）の習得を目指す。受講生には、この講義を通して日本文学について高いレベルでの教養を習得する機会としてほしい。	◎	－	－	－

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	古文書の調査と読解	2後		2	日本の歴史や文化を研究するための一番の基礎は、対象となる時代に記された古文書を読むことである。しかもそれは活字史料ではなく、原史料であることが望ましい。そこで古文書の読解力を養うことを目的とし、実践的な授業を行う。その際、まずは現代の公文書をはじめ、記録遺産としての資料の価値を知ること、資料全般の収集・整理・保存・活用の意義と課題を学ぶことから始める。その上で、江戸時代のくずし字を中心に古文書の読解を進める。	○	－	－	○
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	美術史(日本･東洋)Ⅰ	3前		2	古代から中世に至る日本美術の主要な作品の画像を見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・朝鮮半島の美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から、日本美術の特色とは何か検討する。また、そのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。	◎	－	－	－
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	韓国文化史	1後		2	韓国の歴史と文化の理解に重点を置く。文化は歴史的経緯の上に形成されている。しっかり過去を見つめ、そこから、ことがらの本質にせまる。特に韓国の伝統的な生活文化の諸相に焦点を当て韓国の文化の基礎的な知識を習得し文化的特質の理解を深める。また日中韓の3カ国は古来より様々な側面で互いに強い影響を与えてきた。特に文化の面では日中韓の関係は深い。そこで、日中韓と関連づけながら韓国の歴史と文化の特色について広い視野に立って理解を深める。	◎	－	－	－
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	現代の東南アジア	1後		2	現代の東南アジアについて、関連する学術情報および東南アジア地域から発信されている諸種の情報の収集方法を理解し体得するとともに、東南アジア地域の諸事象の具体的な事例を見ながら、文化の特質とその変容、政治・経済・教育・社会状況等における諸動向、域内各地域間相互および域外各地域との関係、各地の社会と自然環境との関係等を、その歴史的背景も含めて考察し、東南アジアに関する研究を行うための基礎を築く。	○	－	－	○
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	東南ｱｼﾞｱの文化と社会A	2前		2	東南アジア島嶼部を舞台に、外文明との関わり、人の移動と文化の変容、植民地支配の影響、一つの国家としてまとまってゆく過程、独立国家の民族政策・文化政策、言語と教育といった大きな枠組みを念頭に置きながら、文化の重層性や動態について理解を深め、今日の東南アジアを正しく認識するための視座を身につける。その上で、インドネシアにおける地域文化を動態的文化の事例として取り上げ、具体例に基づいて理解を深める。	○	－	－	○
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	東南ｱｼﾞｱの文化と社会B	2前		2	近代以前の東南アジア史に関して基礎的な知識を習得した後、近現代の東南アジアにおけるネーションやエスニシティをめぐる諸事象について理解を深める。東南アジア各地の事例を見ながら、この地域の人々の自己認識がどのように変化したかをたどり、政治や文化における統合や多様性について考察する。また、東南アジア出身者やその子孫が東南アジア以外の地域で定住している事例を取り上げ、そうした人々のアイデンティティについて考察する。	○	－	－	○
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	韓国社会論	2前		2	韓国社会の理解に重点を置き理解を深める。その際、特に制度や社会システムなどの社会構造の側面から韓国社会をとらえる。韓国の文化と社会を知ることにより、日本の新たな面（価値や魅力など）に気づくことができる。そこで、韓国の文化的・社会的特質に迫るために庶民の伝統文化・生活文化の身近なものに注目し、韓国社会の基層構造について考察する。そのことにより、韓国の文化的・社会的特質について、またその歴史的背景や思想的背景などについて理解を深める。	○	－	－	○
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	漢文学	2前		2	『論語』『孫子』『韓非子』等のように、日本の思想や文化に大きな影響を与えた古代中国の思想書をテキストとして、漢文の基本的な読解・訓読の知識と技術を習得する。また、漢文訓読の知識や技術だけではなく、それぞれのテキストやエピソードの作者、歴史、社会、文化、思想、そして日本文化への影響（享受）についても学び、高次の知識・教養を養う。高等学校の国語科教員として「漢文」の授業ができるに足るスキルの習得を目指す。	◎	－	－	－
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	中国の文化と社会	2前		2	本講義では、「文化」と「社会」からアプローチすることで、多角的な視点から重層的に中国を理解することを目標とする。中国に関する様々な最新情報に触れながら、格差と人的移動、政治の民主化と共生社会の実現など、毎回異なるテーマに時間的縦軸と空間的横軸を併用して取り組み、多様な中国の現実を捉える方法を学ぶとともに、具体的なデータや映像を用いて中国の文化と社会を理解する技術や理論を習得する。講義では、多民族多文化社会と国際化社会を生きるための様々な現実的社会問題に目を向けさせることを目指す。	○	－	－	○
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	中国古典学	2後		2	中国古典の教養が東アジアの思想文化の基盤にあり、これに対する教養なくしては東アジア文化の理解はありえない。本講義は、儒学（経学）、歴史、諸子百家（思想）、文学（詩文集）の分類に従い、それぞれに関する人物と書物を紹介しつつ、その特色について考えていく。中国古典を体系的に概説し、その中から教訓を得、教養の幅を広げるとともに、その背景となっている社会の民族文化的基盤をも視野に入れて考察する。中国古典を通して、ものの見方、感じ方、考え方を広くしていくことを目指す。	◎	－	－	－
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	ｱｼﾞｱﾋﾞｼﾞﾈｽ論	2後		2	NIES、ASEAN、移行経済国とインド亜大陸という区分に基づき、アジア諸国の経済発展の軌跡を回顧し、今や世界の経済成長のエンジンとまで称されるアジア経済の全体像を把握する。また、日本などの先進国とアジア新興国の多国籍企業のあり方を通して、アジアで形成された生産ネットワークの実態と拡大するアジア市場の趨勢を明確にする。グローバル化が急速に進む中、日本が今後アジア諸国とどのように経済連携を図っていけるかについて考えることを目的とする。	－	－	○	○
国際文化学科	日本・東ｱｼﾞｱ	―	東南ｱｼﾞｱの歴史	2後		2	東南アジアの歴史について考察し、この地域の社会の特質を理解する。主として18世紀末までの時代を対象とし、東南アジア大陸部諸地域の社会の形成およびそれらの諸地域間の関係や、東南アジアと近隣諸地域（東アジア・南アジアなど）との関係、さらにはヨーロッパとの関係の歴史について理解を深める。その理解に基づいた考察を通じて、19世紀以降の東南アジア史および現在の東南アジア各地の社会に関する理解を深めるための基礎を築く。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	―	英米文学史	1前		2	大学生が身につけるべき教養として、代表的なイギリス文学およびアメリカ文学の作家と作品について取り上げる。作家の伝記的事項、および作品の内容、あらすじ、登場人物、文体、テーマや特徴について学ぶ。講義形式ではあるが、原典の一部を味読する。作品そのものに加えて、作品の背景となる時代性や社会問題、とりわけ「文化」について大きく取り上げる。英米大学の講義ビデオ（英語）や、映像作品などの視聴覚教材も随時用いながら講義していく。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	―	英語文化入門	1後		2	英語を理解するためには、単語や文法の知識だけでなく、その背景文化についての知識が欠かせない。この授業では、英語の成り立ちや、イギリス、アメリカなど英語が話されている地域、また、キリスト教やギリシャ・ローマ神話、ケルト、ゲルマン神話、伝説など、英語や英語文化を学ぶ上で基礎になる背景知識について講義する。学生自身が英語や英語文化に興味・関心を持ち、2年生以上の学科科目においてそれを深めていくための入り口となるように位置づける。	◎	－	－	－

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	西欧・北米文化論	1後		2	「西欧・北米」として括られる地域は、近代市民社会を胚胎し発展させ、近代文明における先進性を自認していただけでなく、他地域からも近代化の目標と見なされていた。だが西欧・北米において近代文明は、それまでの社会や文化を変える市民革命や産業革命などを経ながら発展し、またポストモダン思想のような近代への疑念や否定的な見方にもさらされてきた。そうした過程を視野に入れながら、西欧・北米に固有の文化について考察する。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	地中海地域文化論	1後		2	地中海地域の文化について基礎的な知識を学ぶとともに、地域文化を考察するための基本的な方法論について理解することを目的とする。地中海は、キリスト教文化圏やイスラーム文化圏など、複数の異なる文化圏を含みこんでいるとされる。しかし地中海はまた、それらの複数の文化圏に、統一の基盤をあたえてもいる。地中海周辺のいくつかの国家に焦点を当て、それらの歴史的・文化的特徴を確認しながら、それらの地域的統一性について考察したい。また、文化作品・事象と地域との関係性についても、具体的な検討を行う。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	近現代の中東A	2前		2	世界有数の産油国であるのみならず、中東随一の大国にしてそれ自体が一つの中華世界をなす国イラン。カージャール朝からパフラヴィー朝を経てイスラーム共和国に至るまでのその歴史を、イスラーム以前にさかのぼる古代ペルシア以来の文化的変容を踏まえつつ、近代化の過程における世俗主義モデルと十二イマーム派イスラームの政治理論の相剋、多民族国家における国民統合の探求、民主主義体制の模索、英露および米ソの狭間での独立維持などの問題を踏まえて概観する。	○	－	－	○
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	近現代の中東B	2前		2	13世紀末から第一次世界大戦期まで東地中海地域に覇を唱えた巨大な多民族・多宗教国家オスマン帝国の解体過程を、ムスリムの政治指導者がイスラーム法に基づく統治を行なう「イスラームの家」が一群の国民国家に分裂していく過程と捉えて振り返り、今日この地域で多発している紛争の淵源をこうした国家理念の相剋に求める。この科目はいわゆる「トルコ史」を主たる叙述の対象とするが、必要に応じてバルカン半島やアラブ地域の状況にも言及する。	○	－	－	○
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	西洋史学A	2前		2	近代文明を成立させた西洋の歴史について、日常生活に直結する物質的な条件や経済状況と、それをとりまく経済思想・世界観に重点を置いて検討する。歴史学研究としては、一方では史料すなわち研究対象となる時代に書かれた文献（翻訳）を読み、もう一方では既存の研究成果を参照する。現在の自分たちの物質生活・価値観と過去との連続性あるいは相違に眼を向けることで、自分なりの視点から過去の状況を論じる方法を試みる。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	西洋史学B	2後		2	近代市民社会を胚胎し発展させた西洋の歴史について、法制度・政治体制・統治構造と、それをとりまく文化・思想・価値観に重点を置いて検討する。歴史学研究としては、一方では史料すなわち研究対象となる時代に書かれた文献（翻訳）を読み、もう一方では既存の研究成果を参照する。過去との対比において現在の法制度・政治体制・統治構造を把握するとともに、自分なりの視点から過去の状況を論じる方法を試みる。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	英語文学概論A	2後		2	英文学史において歴史的に評価の高い重要な作品を概観しつつ、それぞれの作品の時代的背景、作品の表現技法、その背後にある思想、その時代の文化、プロット、作品内部に内在するテーマなどの特徴について考察し、論じる。特に作品が生まれたそれぞれの時代や社会の中で「文学」がどう定義され、存在してきたかを具体的事例とともに考察し、文学作品とその作品が生まれた時代との相互関連を深く理解できるように授業を進めていく。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	英語文学概論B	2前		2	アメリカの時代背景を重視しつつ、とりわけアメリカ文化・社会地域問題・移民・異文化等の重要な学問的トピックとも関連させながら、第二次世界大戦後の主要なアメリカ文学作品（映像作品を含む）を読み解いていく。原作、映像作品、文献資料を調べて、グループでプレゼンテーションをして、クラス貢献をする学生参加型の授業である。口頭発表をするとともに、クラス全員で質問やコメント、補足や各自の意見を提出して、作品に対する印象や感想を交換する。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	英語学概論Ⅰ	2前		2	英語の音声、形態、統語、意味、語用、英語の歴史的変遷の側面を扱う英語学について、言語事象例を見ながら理解を深めていく。具体的には、英語の意味解釈・産出はどのように行われるのか、英語はどのように使われるのか、英語のメカニズムを考えながらひもといていく。それらを通して、英語という個別言語だけではなく人間言語そのものを理解する。また、同時に、言語の様々な側面が第一言語としておよび第二言語としてどのように習得されるのかも概観する。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	英語学概論Ⅱ	2後		2	英語学に関する知識を一層深化させ、ことばの仕組みを考える上での科学的アプローチの方法を学び、英語という言語をさらに深く理解する。具体的には、複数の分野の言語に関する先行研究を通して、調査・実験方法、データ分析及び考察の方法を身につけてもらう。それらをもとに、第一言語として英語を習得する場合と、第二言語として英語を習得する場合の類似点と相違点を明確にしながら、言語とその習得メカニズムを探る。それらの結果から、言語学、言語教育に対して何が提案できるのかも考察する。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	ｲｷﾞﾘｽ文化論	2前		2	イギリスは正式にはグレートブリテンおよび北アイルランド連合王国と呼ばれるように、イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランドの各地域がそれぞれ独自の文化を持っている。また、現在は表面的にはキリスト教文化であるが、その深層を見ると、古くからのケルトやゲルマンなど異教の文化の影響を無視することができない。この授業では、そうした各地域や古くからの伝統に目を配りつつ、現代に生きる文化について講義する。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	ﾌﾗﾝｽ文化論	2前		2	フランスの文化・社会を歴史的に概観し、その特質について講義する。授業では、フランスの国家としての歴史を確認しながら、フランス語の成立、教会・城の建築、教育制度、フランス文学・美術の展開など、具体的な文化事象についてとりあげる。また、時事的なトピックにも言及しながら、近年フランスが直面している社会的課題についても考察する。具体的な文化事象をとおして、ヨーロッパおよび世界における、フランス文化の独自性について探究する。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	ﾙﾈｻﾝｽ文化史	2前		2	西欧近代文明の源となったルネサンス期の文化を幅広い観点から考察し、その文化遺産に関する知識を深めるとともに、根底にある思想と精神を明らかにする。美術、建築、音楽、文学の領域について、歴史的・社会的背景とともに特徴を概説し、さらに、祝祭、衣装、食住など生活文化についての理解も深める。「人文主義」「芸術家」「個人」をキーワードに、ヨーロッパ文化におけるイタリア文化の位置づけと、現代まで及ぶその影響について論じていく。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	ｲﾀﾘｱ文化史	2後		2	古代からイタリア王国成立までのイタリア文化の特徴を都市文化の観点から考察する。国家統一に至るまでのイタリアの歴史を概観しつつ、特に、建築、美術、音楽、文学の分野に着目し、当時の社会思想を踏まえて理解を深める。デザインやファッション、食住など現代における都市空間と生活文化に関わる事象も視野に入れ、イタリアの文化と社会の特質を学んでいく。	◎	－	－	－

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	中東現代史	2後		2	主としてオスマン帝国解体後の時代に比重を置いて、世俗主義的ナショナリズムを建国の理念とする共和制の非産油国トルコと真正のイスラーム国家を標榜する君主制の産油国サウディアラビアという対照的な性格の両国およびそれらの中間的存在ともいうべきエジプトのスンナ派ムスリムの3つの国の歴史を比較検討する。中東地域では、20世紀中葉までに反帝国主義を掲げ「上からの近代化」を図る多分に強権的な民族主義政権が相次いで成立した。これら政権の行き詰まりはオルタナティヴとしてのイスラーム主義の復興をもたらすことになった。	○	－	－	○
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	ﾄﾞｲﾂの思想と社会	2後		2	ドイツ語が主に用いられ、ドイツ人が支配的である地域としての「ドイツ」においては、国民国家形成という点では独自の歴史を経ながら、西ヨーロッパを代表する哲学・思想、また芸術や文学が現れてきた。本講義では、そうした意味での「ドイツ」および、近代以降のドイツとオーストリアの社会と思想について講義する。特に、なぜワイマール体制がもろくも崩壊して、ナチスを生み出したかを、近代ドイツ思想史の中から考察する。	○	－	－	○
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	古代ｷﾞﾘｼｱ･ﾛｰﾏ文化と社会	3前		2	古代ギリシア・ローマの文化は、数世紀にわたって古代地中海世界の中心的な位置を占め、その後に成立した「ヨーロッパ」の社会や経済、文化にも大きな影響を与えた。本講義では、文献等の資料を用いて古代ギリシア・ローマの社会、文化、そして経済活動を概観する。たとえば、都市ローマに対する食糧供給とそれが社会に与えた影響などについて論じながら、現代における社会や経済、文化に関する諸問題を考える手がかりを探求する。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	音楽史Ⅰ	3前		2	音楽は世界のあらゆる国や地域に遍在しているが、音楽史では、特定の国や地域（例えば、西洋、日本、アジア、アフリカ等のいずれか）における音楽の歴史を概観したのち、その地における音楽（歌、器楽、音楽劇、宗教音楽、民俗音楽、大衆音楽等）について音楽学的な観点から考察する。音楽史Ⅰは、主に古代から近世を対象とし、必要に応じて政治、制度、思想、その他の芸術領域との関係に目を向け、社会における音楽の営みとその歴史的展開についても言及する。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	美術史(西洋)Ⅰ	3前		2	先史時代から近世ヨーロッパの美術の歴史を学ぶ。また美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。前半は西洋美術の基礎ともいえる古代ギリシア・ローマ時代からキリスト教美術の誕生と発展を経て、ルネサンスに至る軌跡を、後半ではバロック、ロココという近世近代におけるヨーロッパ圏の文化交流を、さまざまな作品を紹介しながらたどり、それらの作品に固有の様式的特性を見極め、さらに様式分類や図像分析といった美術史研究の基礎的な方法論も探求する。	◎	－	－	－
国際文化学科	地中海・西欧・北米	—	美術史(西洋)Ⅱ	3後		2	美術史（西洋）Ⅰで学んだ知識を基礎として、フランス革命以降の近代ヨーロッパから20世紀前半の美術の歴史を学ぶ。また、美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。ルネサンス時代に起こった社会の大きな変化に伴う芸術上の大変革からバロック、ロココ時代を経て、19世紀近代、さらには20世紀に至るまでの社会の変遷と美術史の流れを、各時代、地域、作家等による様式の違いや影響関係を確認しながら歴史を俯瞰する。	◎	－	－	－
国際文化学科	多文化共生	—	Global Studies: Culture and Society A	1後		2	地球上に存在する多くの国々の基盤となっている社会と文化がどのように成立し、複数の社会や文化が相互関係の中でどういった影響を与えながら変遷してきたのかを具体的な事例を通して学ぶ。その途上で発生してきた歴史認識の変化や生活空間変化等をその運動と連動した現象として派生してきたものとして学んでいく。授業は英語ネイティブスピーカーによる英語のみを使った授業とし、英語で専門的な授業を聞く能力を養うだけでなく、英語で質問、議論することを通して、英語授業に慣れ親しむ場とする。	－	◎	－	－
国際文化学科	多文化共生	—	Global Studies: Culture and Society B	2前		2	地球上に存在する多様な文化の中で、特に音楽、演劇、美術、空間造形など、芸術分野の活動がどのような変化を続け、各地の文化と社会にどういった影響を与えてきたかを具体的な事例を通して学び、芸術活動が社会と文化に与える内在的な力とその可能性を知る場とする。授業は英語ネイティブスピーカーによる英語のみを使った授業とし、英語で専門的な授業を聞く能力を養うだけでなく、英語で質問、議論することを通して、英語授業に慣れ親しむ場とする。	－	◎	－	－
国際文化学科	多文化共生	—	Global Studies: Global Issues	2後		2	今日の地球社会が直面する諸問題、いわゆる地球規模問題群（global issues）について、英語で講義し、討論を行う科目である。それぞれの問題の概要と地球社会の取り組みについて英語文献を読み解き、自らの考えを英語で表現し、討論する能力の涵養を授業の目的とする。取り上げる問題群としては、地球規模の経済格差、紛争、地球環境問題、人の移動、技術革新、地球市民意識の台頭などが事例として挙げられる。学生が英語圏の大学に留学した際に学部の講義を受ける訓練としての機能も担うものとする。	－	◎	－	－
国際文化学科	多文化共生	—	ｲｽﾗｰﾑ概論	1前		2	今や全世界の4分の1近くの人々に信仰されるに至った世界宗教イスラームは、居住地域をも日増しに拡大している。グローバル化の進展により、もはやムスリム（イスラーム教徒）と没交渉ではいられなくなった。ここでは、日々の暮らしから国際関係に至るまで人間の行為が関わるすべての領域において信徒たちを律する規範となっているシャリーア（イスラーム法）への理解を深めることを中心に、この宗教独自の世界観・思考様式について初歩から順に学ぶ。また、宗派の違いをはじめとする、この宗教内部の思想的多様性を概観する。	◎	－	－	－
国際文化学科	多文化共生	—	多文化とｴｽﾆｼﾃｨ	1後		2	浜松市では、学校や地域社会で日本人と共に様々な国籍の外国人が共生している。この多文化の現状を踏まえ、外国人と日本人の「当事者の視点」からの問題提起を受け、互いの理解を図る。また、国際移動に伴う社会的適応とエスニシティの形成過程について、諸外国の事例を紹介しながら学ぶ。さらに、外国人第二世代の教育と受け入れ社会への適応の実態とその問題点について考察する。	－	－	○	○
国際文化学科	多文化共生	—	持続可能な社会	1後		2	2015年にSDG（Sustainable Development Goals）の17の目標が国連で可決されてから、「社会の持続可能性」には、環境にとどまらず、貧困問題の是正、健全な経済発展、平等で公正な社会、生産者と消費者の関係づくり、まちづくりといった多様な価値観が組み込まれるようになった。こうした価値観が生まれた歴史的経緯と変遷を学ぶとともに、持続可能な社会を地域社会や自らの生活から見直し、持続可能なグローバル社会をつくるためにどのように行動・判断していくべきかを学ぶ。	－	－	○	○
国際文化学科	多文化共生	—	フェアトレード論	2前		2	世界でフェアトレード運動の生まれた歴史的背景とその発展経過を知るとともに、日本のフェアトレード運動の展開と特徴を学ぶ。またフェアトレードラベル制度の確立によって、どのように企業がフェアトレードに参入しようとしているかなど、具体的な事例や実践者の活動を通して実践的な学びを提供する。この授業を通して、グローバル社会を意識した包括的な倫理的消費行動の意義を理解し、それに基づいた判断のしかた、行動方針、および具体的な行動について学ぶ。	－	－	○	○
国際文化学科	多文化共生	—	文化交流論	2前		2	日本列島における他地域との文化交流について主に歴史的視点から講義する。近代の国民国家の国境線や枠組みができる以前の列島における文化の練り上げられ方を、形質人類学、文化人類学、考古学、言語学、歴史学、古文書学など諸科学の成果から、論じていく。本授業は国内の文化交流にも目を向ける。のちに「日本人」と呼ばれる列島人の中、つまり近代国民国家日本の中にも、さまざまな文化が内在し、国内で交流し合っていることについても理解を深める。	○	－	－	○

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
国際文化学科	多文化共生	―	国際開発論	2前		2	新興国や途上国の経済発展は、世界の貧困率を低下させるだけでなく、今や世界経済成長のエンジンとして期待されている。本講義は、開発経済学の基礎的枠組みに基づき、新興国、途上国の発展を多角的に理解することを目指す。工業化や都市化の進展、人的資本の育成、所得分配と格差、そして海外直接投資など、経済の発展過程に相互に作用する諸要素を通じて、発展のメカニズムを考察する。	‐	‐	○	○
国際文化学科	多文化共生	―	国際労働力移動論	2前		2	国際労働力移動は、国際化する労働市場と多文化化する社会を理解するために重要な視点となる。本講義では、国際移動に関連する概念、移動の背景、歴史などを踏まえ、日本を含む諸外国の事例や動向を紹介する。国際労働力移動が受け入れ国と送り出し国にどのような影響を与え、相互にどのように関連し合うかを考えるきっかけになることを目標とする。さらに、国際移動から形成される多文化社会の中で生きる人々の生活状況と挑戦を考察する。	‐	‐	○	○
国際文化学科	多文化共生	―	国際協力論	2前		2	第二次世界大戦後から始まった国際協力の前提となった国際社会の状況をよく理解し、国際協力へ各国が参加するようになった状況を学ぶ。また、多様な国際協力のプレーヤー、様々な概念や方針の変遷、各機関のリーダーシップの特質を学び、その中で国際協力の将来の方向性を考察していく。特に、国際政治の影響を受けやすい国際協力の一部の構造を理解し、これらをいかに修正し、より社会正義の上に成り立つ、グローバル社会における相互扶助システムとしての国際協力の将来のあり方を構築するかを考察していく。	‐	‐	○	○
国際文化学科	多文化共生	―	国際機構論	2後		2	グローバル化の進展とともに、国際社会のいくつかの側面において主権国家の地位が相対的に低下し、それ以外の政治主体の重要性が高まっている。この授業ではそうした政治主体の代表例である国際機関に着目する。国際連合（およびその専門・関連機関）やEU（欧州連合）等、主要な国際機関が辿ってきた歴史的道程や現代社会において担っている役割等について、理論と実証の双方の観点から考察する。	‐	‐	○	○
国際文化学科	多文化共生	―	日本語文法Ⅰ	1前		2	日本語文法を新たな視点から捉え直すことが狙いである。日本語を外国語の一つとして捉え、日本語を内省する力を身につけながら、日本語文法の仕組みと体系を学んでいく。また、日本語の母語話者だけでなく、非母国語話者に対しても、日本語の規則を説明する力を養っていく。非母国語話者の立場に立ち、想像力を働かせることで、どんな状況にも対応できるような実践的な文法指導力を獲得することが可能となる。教科書に載っていることをそのまま暗記するのではなく、自ら考えたり、グループディスカッションを行ったりして、体験的に学んでいく。	○	○	‐	‐
国際文化学科	多文化共生	―	日本語文法Ⅱ	1後		2	本講義は「日本語文法Ⅰ」の応用編である。理論的・体系的な文法論を展開することで、現代日本語文法の体系的なありようを掌握する。これによって、現代日本語の文法システムを理論的・体系的に捉える視点を身につけ、現代日本語を文法的に分析できる力へとつなげていく。また、「日本語文法Ⅰ」同様、実践的な文法指導力の獲得を目指す。特に、定住外国人の多い地区で、多文化共生社会実現に寄与するために必要な日本語教育を意識し、学習の目的や学習者の年齢など、学習者のニーズに合わせた文法指導力を身につけていく。	○	○	‐	‐
国際文化学科	多文化共生	―	日英語比較研究	1後		2	日本語と英語を比較することを通して、音韻論、意味論、統語論、認知言語学、語用論、談話分析、英語史などの視点から、その相違点と類似点を考察する。具体的には、これまでの研究を概観しながら、相違点と類似点の具体的事例に基づき、言語の個別性と普遍性への理解を深め、できる限りそれぞれに即した言語事象の発見を目指してもらう。また、同時に、日本語および英語を外国語として習得する際のそれぞれの問題点とその対処法についても考察する。	◎	‐	‐	‐
国際文化学科	多文化共生	―	日本語音声学	2前		2	音声・音韻について基本的な知識を体系的に学んでいく。日本語の音とは、どのような特徴があり、どのようなシステムに基づいているのか。また、日本語の音韻は歴史的にどのように変化してきたのか。日本語の音声・音韻全体を概観する。また、非母国語話者に対して指導することを念頭に置き、日本語の母語話者の発音に近づけるためには、どのような点に気をつけていくのか、また、学習者の発音をどのように修正するのかを考える。この視点を通して、日本語音声を客観的に観察していく。	◎	‐	‐	‐
国際文化学科	多文化共生	―	日本語教授法Ⅰ	2前		2	日本語教育は、日本語の授業を通じて、日本と日本文化を発信し、多文化共生社会の実現に寄与する。日本人や日本社会に対する理解者を増やすことにもつながる。これらを実現するためには、どうすればよいのか、そして、どのような工夫が必要か等を考えていく。本講義では、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能の習得、教材検討、コースデザイン、カリキュラム、学習リソースなど、実践的な事柄を取り上げながら、日本語教授法について検討していく。	◎	‐	‐	‐
国際文化学科	多文化共生	―	日本語教授法Ⅱ	2後		2	多文化共生社会実現に寄与するための日本語教育について考え、そのために必要な教室活動の方法を、具体的に実践的に学んでいく。模擬授業を行うことを中心に据え、教材分析、教案作成などの授業準備から授業を行うまでに必要な手順、準備、理論等を学んでいく。学習環境、学習の目的、学習者の年齢、学習形態など「日本語教授法Ⅰ」で学んだことを、より実践的に学び、日本語を教える技術を身につけていくことが目的である。	◎	‐	‐	‐
国際文化学科	多文化共生	―	日本語教育特論	3前		2	日本語教育と一口にいっても、日本国内（および国外）の学校教育（例：日本語学校、公教育機関）のみで行われているわけではない。グローバル化が進むにつれて、日本語支援が必要な児童・生徒、外国人住民、外国人労働者、外国人看護師・介護福祉士など、日本語教育が密接にかかわる課題が近年ますます顕在化している。本科目では、共生社会を目指すうえで、日本の各地域が直面する日本語教育の現状と様々な課題について理解することを目指す。	‐	‐	○	○
国際文化学科	多文化共生	―	日本語教育の実践と応用	3後		2	日本語教員養成課程に必要な科目を修得した上で受講することとなる同課程の総括的な講義である。日本語教育の実習を通して、日本語を教えるということの意義、教授方法、そして、その効果について再度捉え直す。多文化共生社会の中では、日本語学習者の特徴が多様化しつつある。異なる国の出身者たち、異なる言語を母語に持つ人々、さらに、年齢的にも幅広く多様な人々が日本語を学んでいる。このような多種多様な学習者を相手にどのような教室活動や学習活動ができるのかについても考えていく。	○	‐	○	‐
国際文化学科	卒業研究	―	国際文化演習Ⅰ（文明観光学演習Ⅰ）	3前		1	関心を持つ研究分野またはその隣接分野を専門とする担当教員のもとに学生が集まり、担当教員の指導のもと文献の調査、自分の研究の発表、学生の研究内容に関する議論を通じて担当教員の研究領域の基本的な知識や価値観を学ぶ。また、担当教員が必要と考えるその他の諸活動を通じて、卒業論文を作成するために必要なリテラシー能力や資料探索能力の向上、関心領域の学びを適切に深める場とする。これらの研究活動を通して、これまで学んだ多くの科目の多様な価値の統合化と深化を的確に図る。	‐	○	○	‐
国際文化学科	卒業研究	―	国際文化演習Ⅱ（文明観光学演習Ⅱ）	3後		1	関心を持つ研究分野またはその隣接分野を専門とする担当教員のもとに学生が集まり、担当教員の指導のもと文献の調査、研究の発表、研究内容に関する議論を通じて担当教員の研究領域の基本的な知識や価値観をさらに深めるとともに、学生が関心のある研究領域を特定し、その研究をさらに深く学ぶための指導を行う。また、担当教員が必要と考えるその他の諸活動を通じて、卒業論文を作成するために必要なリテラシー能力や資料探索能力の向上、関心領域の学びを深める場とする。これらの研究活動を通して、これまで学んだ多くの科目の多様な価値の統合化と深化を的確に図る。	‐	○	○	‐

区分			科目名	開講時期	単位数		科目概要	学科DPとの関連			
大	中	小			必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4
国際文化学科	卒業研究	—	国際文化演習Ⅲ（文明観光学演習Ⅲ）	4前		1	学生が関心のある研究領域を特定し、その領域を含む包括的な学びを深めるための指導を行う。具体的には、その研究領域に関する研究発表、参考文献や研究資料の特定、多様な見解が存在する場合の分析方法、独自の研究領域の設計、必要な調査方法や分析方法の学習を通じて、学生独自の研究が円滑に進むようする。また、担当教員が必要と考えるその他の諸活動を通じて、卒業論文を作成するために必要なリテラシー能力や資料探索能力の向上、関心領域の学びを深める場とする。	–	○	○	–
国際文化学科	卒業研究	—	国際文化演習Ⅳ（文明観光学演習Ⅳ）	4後		1	学生が関心のある研究領域を特定し、その領域を含む包括的な学びを深めることで、卒業論文研究に資する学習指導を行う。具体的には、その研究領域に関する研究発表、参考文献や研究資料の特定、先行研究の分析、多様な見解が存在する場合の分析方法、必要な調査方法や分析方法の学習を通じて、独自性の高い研究のあり方を追求するなど、学生独自の研究が円滑に進むように指導する。また、参考文献や引用、図や表の使い方といった論文作成時の注意点などについても引き続き指導を行う。	–	○	○	–
国際文化学科	卒業研究	—	卒業論文（卒業論文（文明観光学））	4後		4	これまで科目から学んだ多様な事実と価値観、国際文化基礎論や国際文化演習から学んだリテラシー能力や専門的研究の成果を包括的、統合的に集約させ、卒業論文に反映させる指導を行う。具体的には、先行研究の分析、学生の関心を持つ研究領域の特定、研究に必要な文献・資料の特定と探索、必要な調査・フィールドワークの技術と実行するための計画づくり、論文の理論的な構成方法、参考文献や引用などの表記方法など、論文作成に必要な事項を担当教員が指導する。	–	–	–	◎